

年明けから新聞・テレビ等で報道されてきた『新型コロナウイルス』に関しては、現在、熊本でも発症者が確認されるなど不安な日々が続いています。様々な情報が飛び交い、何をどうしたら感染拡大を防ぐことができるのかが不透明な現状にあって、私たちが今できることは、これまで同様「手洗い」「うがい」の徹底であると考えています。そして、バランスのとれた食事を摂り、たくさん体を動かし(遊び)、十分な睡眠をとるという生活リズムをご家族皆様で再度整えて過ごしていただければと思っています。

基本的な生活習慣の定着のために、園と家庭とで取り組んでいる基礎・基本の徹底こそが、自分の命を守るために必要不可欠であることを、この機にみんなで再認識し難局を乗り切ってまいりましょう。

最後まで諦めない!

～どうせ〇〇だから・・・ではなく～

昨年の音楽会終了後から始めた年長組の『マラソン』。目的地まではスクールバスに乗って出かけ、坪井川周辺の歩道を走ります。頬を突き刺すような冷たい風の日もあれば、金峰山がかすんで見える日もある等、子どもたちは毎回自然の変化を五感で感じながら、それぞれのペースで最後まで休まずに走ることを目標に取り組んできました。(マラソンの様子は、HPでお伝えしています。)

そんな中迎えた5回目のマラソンの日(2月21日)。朝のバスで登園した年長児を見つけた私は、いつもトップでゴールしている男児に、「今日はどうかな?」と声を掛けました。すると側にいた男児が、「(僕は) どうせいつも3番だから・・・」と言葉を発したのです。その、「どうせ」がとても気になった私は、「やってみるまえからどうせと思ってしまうと、そこで終わりだよ。3番だって誰でもなれるわけじゃないよ。」といった話をしました。勿論、速い遅いではなく、最後まで自分のペースで走り切ることが一番大事だということは、周辺の子もたちと再度確認をしました。その後は、「先生は60番くらいかな?」などと笑顔で会話を交わし、朝のひと時は終了したのでした。

午前10時過ぎ、いよいよマラソンの出発です。子どもたちの足音や息遣いが徐々に近づいてくる中、ゴール手前でカメラを構えていた私の目に飛び込んできたのは、何と朝、会話を交わしたふたりの男児の姿でした。互いに譲らずデッドヒートの先頭争い。最終的にはそれまで同様の結果でしたが、伴走していた先生の情報では、しばらくの間順位は逆転していたとか。もし彼が、どうせではなく、やってみようという気持ちで今回のマラソンに挑んでくれたのであれば、2位という結果以上に大事なことを学んでくれたのではないかという気がして嬉しくなりました。

最後まで諦めない!という気持ちを、私自身も持ち続けたいと改めて実感した出来事でした。



親指の周り
爪の間
指と指の間
など丁寧に

【編集後記】今年もあと2週間余りで年長組の卒園式を迎えます。幼稚園での最高学年である年長組は、この一年、様々な場で在園児の憧れの存在として園を引っ張ってきてくれました。その中の一つが戸外での鬼ごっこ、鉄棒、雲梯への挑戦だったと思います。園庭を走り回り、身をかわしながら、時には危険回避のために小さい子どもの前で上手にブレーキをかけ、笑顔で鬼遊びを楽しむ姿は、自然と年中組に引き継がれています。また、遊びの中で自分の意見を相手に伝え合うという経験を重ねてきた子どもたちは、きっと新しい環境でもコミュニケーションをとりながら一歩一歩前に進んでくれるものと信じています。そんな子ども達と間近で触れ合え、幸せな一年を過ごさせていただいたことに感謝しています。(子育て相談: 北村)